

クリックホールディングス事業進捗 IR レポート

September 22nd 2022

BGS メンバー様各位

クリックホールディングス株式会社
経営戦略室 2022-01299

大型台風が去り秋風が涼しい季節となり皆様益々のご清栄のことと存じ上げます。日頃は弊社事業活動に多大なるご支援ご理解をいただき厚く御礼申し上げます。

さて、大変ご心配をおかけしておりました事業進捗のご報告（一部ダイヤモンドメンバー様には一か月ほど前よりグループ単位でご説明申し上げてきました）この度 IR レポート通信として一般 BGS メンバー各位様向け、収益分配ビジネスモデルの「委託開発フェーズ*1」にあたります CH（クリックホールディングス弊社）事業の進捗経緯および現況について以下プロジェクト毎とりまとめをいたしましたので改めてご報告申し上げます。

なお、この IR レポートは弊社社内調監査の結果をもとに極めて機密性の高い内容も含まれているため、BGS 正規メンバー様各位限定配布とさせていただきますので、対象部外者、第三者への開示はお控えいただき、お取扱いにはくれぐれもご注意くださいますようお願いいたします。

BGS 収益分配ビジネスモデル

*1 委託開発事業収益還元：開発委託先→CH 社

*2 仮想通貨バリューアップ運用益還元：リード社(page6 参照)

1. 各推進事業部門これまでの経過

① オンラインカジノ事業

当初ゲームの総合プラットフォームで、単発キラーコンテンツのひとつとしてオンラインカジノをリリース使用できる通貨 BGC の流通量を増大し取引レートを上げていくというコインとの連携ビジネスの基幹プロジェクトとして開発を当社が受託開発側として着手した。

そしてカジノを含めたオンラインゲーミングのワールドオフショアライセンスを保有するリード社とのクロスライセンスで収益を上げていく計画であった。しかし内部人事上の問題に起因して実際の開発を複数の外注企業との連携を余儀なくされ、各システムのモジュールはそれぞれ完成したものの、統合接続とデバックおよび多言語化への対応やセキュリティーブロックの最終段階手前で一時停止している。早急に人的リソースの入替と内製化への作業移行を解決する必要がある。

また射幸性のある当該事業はプラットフォームおよびエンジンの運営を日本国外の適法国でのパートナー企業とライセンス契約する必要がありリード社の提携先となるこのトランスファー先との交渉締結をもって来春めどに連携し事業プランの再構築を検討中。※後述 A 社事業へ移管、事業計画詳細は 11 月下旬配信

② 二輪事業

現行 e アシストモビリティは中国製造基準の脆弱な安全性を暫定的に当方日本サイドで解決すべく、現在新規の販売及び出荷を停止しフレームの補強、電気系統の改修など保安基準に準拠した改版を進めている。

弊社川越工場にて日次作業 80 台目標で差替改修作業中。

販売総数の約 40%あたる約 1,800 台の改修を 9 月末に終了し 11 月中旬をめどに全数完了達成する見込み。これに伴い 11 月初旬から新車販売を再開する予定。

また、新型車両の開発も着手しており日本国内の保安基準で現行車両の瑕疵を改良したフラッグシップモデルの来春リリースを目標としている。※後述 B 社事業へ移管、事業計画詳細は 11 月下旬配信

③ NFT 事業

当社プロパーのクリエイター集団による多数の NFT アートをマーケットプレイスに 11 月下旬リリース準備を進めている。当面はプロモーション及びマーケットメイクを行い（具体的な手法は記載できないためご了承ください）取引高を来春に向け拡大していく。すでにマーケットを支援する SNS フォロワーの総数は 10 万人に肉薄しており年内に倍数の呼び込みを図っていく。

これによりライセンス収益歩積や取引に使用される暗号資産（BGC など）の流通量の拡大を図ることができる。 ※後述 A 社事業へ移管、事業計画詳細は 11 月下旬配信

④ ゲームアプリ開発事業

BGS ゲームの課金エンジンとして BGC 流通量を拡大する目論見でゲーム受託開発に取り組んだが、開発工数の積算と開発予算の誤算により一時的頓挫しており、現在ポケットゲームレベルのアプリのみエントリーされていて収益事業の形成に至っていない。このため今後市場動向を鑑み継続的に開発投資を進めていくのか再検討中。

※一時的に撤廃プロジェクトとして保留中、最終方針は 11 月下旬配信

⑤ ガジェット輸入販売事業

既知の物販輸入商品の性能、特性評価段階で技術的、マーケティング的分析が稚拙であったために長期的な不良在庫を抱えることとなった。

仕入れ、代理店契約の条件見直しをはじめとしたサポート体制が現在確立できないため一旦輸入販売業務を保留し今後の展開は在庫回転率、収益性の高い売り切り商材の発掘まで撤退するとしている。

※現有長期滞留在庫商品（サウンドボックス、Gpro など）の流動性在庫の見切売却をした上でキャッシュフローへの組み入れを図っている。

⑥ 脳トレ事業

前期より市場需要が全く伸びず経営資源をこれ以上投下するに及ばないため 7 月をもって撤退。すでにサービスの停止と会員の精算に入っている。

⑦ VR 事業

主力 VR のコンテンツホルダーであるキーパーソンが退職したため、リリース前に頓挫。これも経費予算圧縮のため今回撤廃。

⑧ ボディメイク事業

前期よりオンラインボディメイク事業の会員数が一向に伸びず収益好転の兆しが見えずこれも撤廃。

⑨ その他（不動産証券投資、レストラン経営、ホンバイクショップ等）

ハンスケバー、事業収支が黒字転換せず下げ止まりが続いたため、撤退、閉店（8 末）

六本木、西麻布の両店舗双方黒字転換せず累損が好転しないため両店ともに閉店（8 末）

その他、法人名義車両売却など。

⑩ ハンゾンレンタルプロジェクト

ハンゾンレンタル（別事業会社）ホンバイク出荷が一時停止中のためレンタルの新規設置先等の開拓を保留にしている。改良車両や代替メーカーのラベル OEM 導入等精査中であるが方針が現時点で決定に至っていない。※11 月末に再スタート等の情報配信

2. おもな課題、障壁とその解決策について

① 風評問題について

昨年末からのデイリー S 社、データ M 社などの記事による風説流布を端緒に、人員採用（中枢開発要員の補強など）および取引先（マクアケ社、アマゾン、楽天、ヤフー等）、金融機関等の信用調査、与信に甚大な機会損失が続いたため正常な事業推進が困難な状況に陥っている。

（※最近のトピック）

当時前代表の半沢氏が一日市長を務めた福岡県中間市の直近定例議会（9/22 閉会）での一議員による福田健次市長への代表質問で再度 M 社の記事内容追及があり事実と異なる風説流布相当の質疑を公式議会中継を全国に一般市民に公開したため、これを持続的営業妨害と判断した当社側は中間市とこの一議員を相手取り信用棄損及び損害賠償請求の両側面で提訴を検討中。

（選択した抜本改革）

このため既存/現在進行中の事業資産および開発成果物の収益保全、および期限利益の確保のため現有事業の分離を実施、それぞれ新規 A 社、B 社に移管し資本関係を持たない独立事業会社として再生する方針に踏み切った。これに伴い代表者の変更、株式の外部移動を図り事業収益の保護と中枢人員の隔離を実施し 9/1 を皮切りに平常業務の再稼働をした。（以下、③参照）

② 不採算事業の撤廃と徹底的なコストカット

《撤退事業》

脳トレ、ボディメイク、VR、ゲームアプリ開発、ガジェット輸入販売

《コスト削減》

六本木ヒルズ店舗およびホンバイクショップ閉鎖（8末）、ハンスケダイニング閉店（8末）、渋谷本社オフィスビル3フロア撤収（8末）、久喜倉庫（8末解約）人員解雇（8初旬一般社員概ね対象）、業務委託契約人員解除（7末）、コンサルティング契約解除（7末）

③ 事業会社の分離および事業収益の保全

- a. 風評問題を回避したうえで収益事業を存続、実務に集中する環境づくりの大改革として8月初旬に実務社員を新会社へ転籍前提で会社都合による解雇を発令。一部転籍辞退者はそのまま流出したが直近の再生主力事業となるNFTプロジェクトおよびオンラインマーケット部門を
A社（正式社名及び所在地は当面の間非公開）、そしてホンバイクの改訂版、新型車両販売サポート事業のeアシストモビリティプロジェクトを
B社（こちらも正式会社名は当面の間非公開）に分離手続を完了した（9月初）
- b. さらに、オリジナル事業母体である当社（クリックホールディングス）は代表者を半沢龍之介から田中佑磨に交代し、BGSメンバー様を筆頭とした既存各取引先との債権債務の利害関係維持のため引き続き業務を遂行、風評問題などに対応をしていくほか、分離収益部門会社との既得権益ライセンス契約もとづく収益管理会社としてその機能保全していく方針である。つまりBGSメンバー様の収益分配の窓口となって運営管理を主要の役務とし実質的なホールディングカンパニーとして存続していく。（今期は市場混乱を回避するため社名変更せず）

④ 転籍人事と採用計画による休眠プロジェクトの再起動

前項②の事業再建計画の基盤になる収益事業の分離に伴い以下の転籍人事を実施した。

- ・ 旧NFTプロジェクトチーム → CH解雇 → A社へ転籍
- ・ 旧二輪事業部 → CH解雇 → B社へ転籍
- ・ 旧バックオフィスメンバー → そのままCHに残留
- ・ 各部門マネージャー → CH退職、転籍なし
- ・ その他撤廃部門人員 → CH退職、転籍なし

Q123（2023/第一四半期）

A社

コンテンツプログラマー、ネットワークエンジニア等技術者 → 休眠オンラインカジノ等再起動
NFT外国人クリエイター → バイリンガル国際進出

B社

新車開発担当技術者（躯体設計、強度解析技術者および電子設計技術者）

⑤ 財務体制の見直しと予実管理

- a. 財務会計基準の確立 → 管理会計方式で月次決算へ移行
勘定科目の正規引当、処理方の徹底、費用解析、原価計算および開発資産の減価償却管理の徹底
労務工数等の原価組み入れ → 経常利益のリアルタイム管理
在庫棚卸、仕掛品等の管理、適正在庫移動などルール策定

※今回財務会計基準の改変を実施し短期間で未精査部分がある上、資産売却等の手続き進行中のため11月末次回レポートにて直近B/Sおよび会計報告をさせていただきます。

b. 直近のキャッシュフローについて

- A社、B社の事業収益がキャッシュフローに反映されるまでの資金について、
I 資産売却の促進（棚卸在庫の損失売却、法人名義のその他資産売却手続き中）
ii 労務債権以外の支出を保留（債務の支払繰延べ）手元現預金の留保
iii 証券資産の売却等

3 代表者および株主変更について

代表取締役 半沢龍之介 8/1付退任 新代表取締役 田中佑磨 8/1付就任

株式移動 半沢龍之介 5,000株 → 部外一般株主へ 同8/1付移動（発行済み株式の97%相当）

4. 各種問い合わせ先について

現在クリックホールディングス本体事業拠点は事業所撤収レンタルオフィスで暫定的に業務遂行中につき（2-②に伴う費用支出の削減）以下問い合わせ窓口を設置、ご参照ください。

クリックホールディングス事業関連	03-3406-7530 fax 03-3406-7531
BGS 関連	後日各ダイヤモンドリーダー様経由で専用ホットラインご案内します
e アシストモビリティユーザーサポート	070-8959-5009 または 080-9284-7299

5. 予想損益について

（※11月末次回レポートで事業計画とあわせて配信）

6. 会計監査報告について

（※現在会計仕分け引当処理精査中につき11月末次回レポートにて配信予定）

7. BGC 現況と見通しについて

(リード社出典)

① BGC への交換現況

BGS→BGC の交換を 2022 年 4 月からスタートした。現時点での交換は BGC (HMC) のみ。
BGC (ERC20) は複数の取引所に Listing した後、流通量が増えてから交換出来るように計画中。
それまで BGC に交換せずに BGS 保有の場合、BGC 交換時 ERC20 に移行可。

※HMC：ハンマーチェーンの略。ERC20：イーサリアムチェーン上の規格。

② BGC (HMC)

Meta Earth Ex への Listing の他に、Hammer Wallet (<https://walletpro.hammermining.com>)
にて Staking Service を提供。3 種類の Staking Service を利用可能。

8/末現在のレートは約 3 セント。(ポイント購入時の 1/6～1/7 位で推移)

初期段階に BGC に交換後取引したケースでは 1 ドルで取引され 5 倍程度に利得。現在は売り圧力もあるため、BGC に変えて取引を行う場合上記レート (3 セント) で取引されるとしている。

③ BGC (ERC20)

A : Bit Global : 2020 年 12 月に Listing

CMC (コインマーケットキャップ) で取引所スコア 98 位 (8/末)

取引所 Volume(24h) : ¥10,857,802,744(8/末)

B : Klickl (formerly IDCM) : 2022 年 5 月に Listing

CMC で取引所スコア 37 位(8/末)

取引所 Volume(24h) : ¥98,632,618,142(8/末)

C : Lbank : 2022 年 6 月に Listing

CMC で取引所スコア 16 位(8/末)

取引所 Volume(24h) : ¥140,489,391,047(8/末)

BGC(ERC20)は中堅～大手取引所に 3 ヶ所 Listing 済み。

8/末現在のレートは約 7.35 セント。(ポイント購入時の 1/3 位で推移)

現在 CMC 取引所スコア 10 位以内の取引所に数社 Listing を進めており、その内の一社でも取引所への Listing が決まり次第、コインのプロモーションを開始予定。

(ただし、事業の裏付け及び使える場所が必要な為、CH 関連 NFT やメタバース及びゲーム・カジノにて BGC を使える様にする必要があり、その進捗で BGC のプロモーション及びマーケットメイクは前後する可能性もある)

進捗の保全として BGC を決済通貨として使える他社プラットフォームとの連携で大手市場への Listing も視野に入れている。(※11 月末レポートにて詳細) 実行流通量が確保出来た時点で BGS→BGC (ERC20) への交換開始予定。(上記 BGC プロモーション開始後数ヶ月程度を予定)

その他) 事業再建と新体制の早期軌道安定を図る目的を前提として

1. 新体制 CH 事業再建に伴った新体制の活動開始と同時に、前代表・半沢龍之介氏のメディア露出およびイベント・タレント活動も当面の間、自粛、謹慎を依頼しております。
2. 同様に伊藤大介氏にも対外的活動の自粛、謹慎を求めていますのでこのレポート内容等のお問い合わせ先は後日各ダイヤモンドリーダー様経由でご案内予定の専用ホットラインにてお願いいたします。

以 上